

第1回奄美群島成長戦略プロジェクト推進会議 議事概要（主な意見）

【分野共通】

- 奄美群島全体の観光マスタープランが必要。
- オーバーツーリズム対策は、エコツーリズムの中だけでなく、観光受入体制と合わせて検討することが必要。
- エコツーリズム推進全体構想など、既存の様々な計画についてレビューすべき。
- 作成するロードマップを踏まえて、具体的な事業化を図っていくべき。
- 奄美群島観光物産協会（ぐーんと奄美）の強化が重要。

【受入体制の整備】

- 観光客が世界自然遺産になってどれくらい増えるのか、ホテルなど受け入れ体制がどれくらい足りないのかという根本的な部分の認識が共有されていないのが問題。
- 奄美は、オーバーツーリズムにならないよう、サステナブルツーリズムのデスティネーションとしていくことを考えるべき。
- 地域における KPI は、現在、多くの地域で観光客数で設定される場合が多いが、富裕者層を誘客した場合は少数も多いことから人数のみならず、消費を高める KPI も検討して欲しい。
- キャッシュレスについては、まずは地域住民に使ってもらい満足してもらおう視点が重要であり、その後、観光客の利用促進に進むことが望ましい。
- 例えばキャッシュレスについては既に商工会議所が動いているところであり、そういった既に取り組を進めている主体もこの会議における情報共有に含めていくことが必要。
- 多言語化は、グローバル化に発展に寄与するので、地域住民の教育レベル向上も視野にいれながら、地域ブランド向上を見据えることで、地域の魅力が生まれ、移住・定住や関係人口増大にもつながる。
- 地域産業振興の観点からは、観光客が落とすお金を地元で滞留させるために、宿泊施設の食材調達、土産品生産などの面で地域内循環を高める仕組みづくりが重要。
- 広域観光は県をまたぐこと、複数の航空会社の連携が進まないことがハードル。これらを乗り越えれば、九州全土及び沖縄の他の世界遺産を巡る旅が商品化できる。

【自然保護と観光の両立】

- 奄美のエコツアーの受け入れは現在の状態でほぼ一杯。奄美の山は多くの方が歩くことには適していない。世界自然遺産センターなどを整備するならば、森に入らずとも奄美の自然に満足して帰ってもらえる施設とするべき。バスツアー対応についても、動植物園と自然公園を混ぜたような施設を世界自然遺産推薦地以外の観光バスの入れる場所に作るべき。
- 金作原は、下に駐車場を作り、入場制限をして電気カートなどで回ることにすべきだと皆が思っているのに、プレーヤーが決まらないまま具体化しないのが問題。
- ほのぼのとした不便さが奄美のいいところであり、金作原にはトイレも立派な駐車場もなくていいと思う。金作原と同じように観光客が気持ちを発散できる場所がいくつか整備できるといい。

い。

- 景観条例の整備を急いほうがいい。
- もともと奄美は大量の観光客に対応できる状況になく、観光客を増やすなら、集落景観、移動時の景観を損なわないように、相当な覚悟をもって景観を守る計画を練らねばならない。
- エコツーリズムには文化も含まれる。シマあるきガイドなどもロードマップのエコツーリズムの小項目に追加すべき。
- 奄美では、「観光による地域づくり」として、観光より地域づくりのほうを目的とするべきであり、観光客もそれを求めている。小中学生が地元の歴史・文化・自然を学び、誇りを持つことが大事。
- 不便さを売るマーケットもある。ターゲット別に移動手段も含めてシミュレーションした上で受け入れ可能かなどを考えるべき。
- 少数のグループでも奄美の魅力を知っている人が来てくれればいい。教育的な観光によい地域だと思う。

【戦略的な情報発信】

- 情報発信については、環太平洋の観点が必要。鹿児島、奄美、沖縄、台湾という大きな観光圏の中から奄美がすっぽり抜け落ちてしまわないためには、今が一番大切な時期である。
- 世界自然遺産だけでなく日本遺産なども獲得することが重要。日本遺産では景観、郷土芸能、伝統料理といったストーリーがシリアルにつながるものが指定される傾向がある。奄美でも、既存の文化遺産をつなげていくストーリーを考えることが重要。